

調査資料**特定添加物検定結果等について（令和 6 年度）**

肥飼料安全検査部 飼料鑑定第二課

Results of Official Testing of Specified Feed Additives (in the Fiscal Year 2024)

特定添加物とは、飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律（昭和 28 年法律第 35 号．以下「飼料安全法」という．）第 3 条第 1 項の規定に基づき規格が定められた飼料添加物のうち、飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律施行令（昭和 51 年政令第 198 号）第 2 条第 2 号に定められた抗菌性物質製剤をいう．特定添加物は、飼料安全法第 5 条第 1 項の規定により、独立行政法人農林水産消費安全技術センター（以下「FAMIC」という．）が行う検定を受け、検定合格証紙が付されたものでなければ販売してはならないこととされている．ただし、飼料安全法第 7 条第 1 項の登録を受けた特定飼料等製造業者（以下「登録特定飼料等製造業者」という．）が製造し、同法第 16 条第 1 項の表示が付されたもの及び同法第 21 条第 1 項の登録を受けた外国特定飼料等製造業者が製造し、同条第 2 項の表示が付されたものについては、この限りではない．

令和 6 年度に FAMIC に対して検定の申請があり、これに合格した特定添加物について、結果をとりまとめたのでその概要を報告する．また、令和 6 年度の登録特定飼料等製造業者による特定添加物の製造数量等についても併せて報告する．なお、令和 6 年度末の時点で、外国特定飼料等製造業者の登録はない．

1 特定添加物の検定申請業者及び品名等

令和 6 年度に検定に合格した特定添加物について、その種類及び品名等を申請業者別に表 1 に示した．

申請は 4 業者からあり、前年度からの増減はなかった．申請のあった 4 業者のそれぞれの製造形態等は、①製剤の製造のみを行っているのが 2 業者、②製剤の輸入のみを行っているのが 2 業者であった．なお、国内製造の製剤に用いられている製造用原体は輸入品であった．

令和 6 年度に検定に合格した特定添加物は 5 種類、7 銘柄（前年度 5 種類、8 銘柄）であった．

また、輸入先国について、製剤の輸入先国は、アピラマイシンが英国、ナラシンが米国、フラボフォスフォリポール及びサリノマイシンナトリウムがブルガリア、製造用原体の輸入先国は、サリノマイシンナトリウム及びエンラマイシンが中国で、4 カ国（前年度 4 カ国）であった．

表 1 検定申請業者及び品名等一覧
（令和 6 年度）

管区※1	申請業者名	製造事業場名	特定添加物の種類	飼料級に 該当	申請品名	含有力価 (mg(力価)/g)
本部	エランコジャパン株式会社※2		アビラマイシン	○	サーマックス200	200
			ナラシン	○	モンデバン100	100
	日本ニュートリション株式会社	鹿島工場	サリノマイシンナトリウム	○	サリノマイシン 10%製剤 K-J	100
			エンラマイシン	○	エンラマイシン8%R	80
神戸	Huvepharma Japan株式会社※2		サリノマイシンナトリウム	○	サコックス100	100
				○	サコックス200	200
			フラボフォスフォリポール	○	フラボマイシン80	80
計	4業者	2事業場	5種類		7銘柄	

※1 本部管区：関東・甲信越・静岡，神戸管区：近畿・中国（山口除く）・四国

※2 輸入業者に該当

2 特定添加物の種類別の検定合格件数等

令和 6 年度の特定添加物の種類別の検定合格件数，合格数量及び実量力価換算量を令和 4 年度及び令和 5 年度の結果とともに表 2 に示した。

令和 6 年度の検定合格件数は 90 件，合格数量は 502 トンで実量力価換算量は 63 トン(力価)であった。件数，数量及び実量力価換算量の対前年度比は，それぞれ 89.1 %，79.3 %，77.0 %となり，件数，数量及び実量力価換算量ともに減少した。これはナラシンの件数，数量及び実量力価換算量が大きく減少していることが要因の一つと考えられる。

令和 6 年度の検定合格数量を種類別にみると，サリノマイシンナトリウムが全体の 50.3 %（前年度 40.8 %）で最も多く，次いでナラシン 26.3 %（前年度 39.5 %），アビラマイシン 13.1 %（前年度 13.4 %），フラボフォスフォリポール 9.5 %（前年度 5.7 %），エンラマイシン 0.8 %（前年度 0.6 %）となった。また，実量力価換算量については，令和 6 年度はサリノマイシンナトリウムが全体の 51.5 %（前年度 44.8 %）で最も多く，次いでナラシン 21.0 %（前年度 30.6 %），アビラマイシン 20.9 %（前年度 20.7 %），フラボフォスフォリポール 6.1 %（前年度 3.5 %），エンラマイシン 0.5 %（前年度実績 0.4 %）となった。

検定合格数量を類別にみると，令和 6 年度は，ポリエーテル系が 76.6 %（前年度 80.3 %），オルトソマイシン系が 13.1 %（前年度 13.4 %），ホスホグリコリピッド系が 9.5 %（前年度 5.7 %），ポリペプチド系が 0.8 %（前年度 0.6 %）であった。

令和 6 年度の検定合格数量及び実量力価換算量を前年度と比較すると，フラボフォスフォリポールは増加し，エンラマイシン及びサリノマイシンナトリウムは前年度並み，アビラマイシン及びナラシンは減少した。

同様に類別に前年度と比較すると，検定合格数量及び実量力価換算量ともにホスホグリコリピッド系は増加したものの，オルトソマイシン系及びポリエーテル系は減少した。ポリペプチド系は前年並みであった。

亜鉛バシトラシンは平成 28 年度から，ノシヘプタイドは令和元年度から，モネンシンナトリウムは令和 5 年度から，ラサロシドナトリウムは平成 22 年度から，センデュラマイシンナトリウムは平成 19 年度から，ビコザマイシンは平成 11 年度から検定の申請がなく，これらは令和 6 年度も申請がなかった。なお，ノシヘプタイド，モネンシンナトリウム及びラサロシドナトリウムは，後述の表 4 に示したとおり，登録特定飼料等製造業者による製造実績があった。

表2 検定合格件数、合格数量及び実量力価換算量（種類別）
（令和4年度～令和6年度）

類 別	特定添加物の種類	令和4年度				令和5年度				令和6年度			
		合格 件数 (件)	合格数量 (kg)	構成比 (%)	実量力価 換算量 (kg(力価))	合格 件数 (件)	合格数量 (kg)	構成比 (%)	実量力価 換算量 (kg(力価))	合格 件数 (件)	合格数量 (kg)	構成比 (%)	実量力価 換算量 (kg(力価))
ポリペプチド系	亜鉛バシトラシン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	エンラマイシン	2	4,120	0.7	330	3	3,960	0.6	317	3	3,920	0.8	314
	ノシヘブタイド	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ホスホグリコ リピッド系	小 計	2	4,120	0.7	330	3	3,960	0.6	317	3	3,920	0.8	314
	フラボフオスフオリポール	8	46,000	7.3	3,680	6	36,000	5.7	2,880	8	48,000	9.5	3,840
	小 計	8	46,000	7.3	3,680	6	36,000	5.7	2,880	8	48,000	9.5	3,840
ポリエーテル系	サリノマイシンナトリウム	48	304,685	48.3	44,841	45	259,020	40.8	36,702	49	252,900	50.3	32,490
	センデュラマイシンナトリウム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ナラシン	20	208,625	33.0	20,863	23	250,425	39.5	25,043	12	132,275	26.3	13,228
オルトソマイシ ン系	モネンシンナトリウム	2	8,000	1.3	1,600	—	—	—	—	—	—	—	—
	ラサロシドナトリウム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	小 計	70	521,310	82.6	67,304	68	509,445	80.3	61,745	61	385,175	76.6	45,718
その他	アピラマイシン	17	59,950	9.5	11,990	24	84,925	13.4	16,985	18	65,900	13.1	13,180
	小 計	17	59,950	9.5	11,990	24	84,925	13.4	16,985	18	65,900	13.1	13,180
	ピコザマイシン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
総 計	小 計	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
	計	97	631,380	100.0	83,303	101	634,330	100.0	81,926	90	502,995	100.0	63,052
	対 前 年 度 比 (%)	142.6	116.5	—	117.7	104.1	100.5	—	98.3	89.1	79.3	—	77.0

ー：実績なし

3 特定添加物の精製級及び飼料級別の検定合格件数等

特定添加物は、培養後の製造方法の違いにより、精製級と飼料級に区分される。前者は、抗生物質の有効成分のみを培養液から抽出及び精製した高純度の製造用原体に由来するもので、後者は、抗生物質の有効成分、製造に用いた培地成分及び菌体成分を含む培養液を乾燥した製造用原体に由来するものである。

令和 6 年度の特定添加物の精製級及び飼料級別の検定合格件数、合格数量及び実量力価換算量を表 3 に示した。

精製級の実績はなく、すべて飼料級のみであった。

ノシヘプタイド及びサリノマイシンナトリウムは、精製級と飼料級の両規格が設定されているが、令和 6 年度は、ノシヘプタイドは精製級と飼料級のどちらも検定の実績がなく、サリノマイシンナトリウムは飼料級のみ検定の実績があった。

表 3 検定合格件数、合格数量及び実量力価換算量（精製級・飼料級別）
（令和 6 年度）

類 別	特 定 添 加 物 の 種 類	精 製 級※			飼 料 級※		
		合格 件数 (件)	合格数量 (kg)	実量力価 換算量 (kg(力価))	合格 件数 (件)	合格数量 (kg)	実量力価 換算量 (kg(力価))
ポリペプチド系	亜鉛バシトラスン	—	—	—	—	—	—
	エンラマイシン	—	—	—	3	3,920	314
	ノシヘプタイド	—	—	—	—	—	—
ホスホグリコリピッド系	フラボフォスフォリポール	—	—	—	8	48,000	3,840
ポリエーテル系	サリノマイシンナトリウム	—	—	—	49	252,900	32,490
	センデュラマイシンナトリウム	—	—	—	—	—	—
	ナラシン	—	—	—	12	132,275	13,228
	モネンシンナトリウム	—	—	—	—	—	—
	ラサロシドナトリウム	—	—	—	—	—	—
オルトソマイシン系	アピラマイシン	—	—	—	18	65,900	13,180
その他	ビコザマイシン	—	—	—	—	—	—
合 計		0	0	0	90	502,995	63,052
割 合 (%)		0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0

—：実績なし

※斜線は、当該区分の規格がないことを示す。

4 登録特定飼料等製造業者による特定添加物の製造数量等

令和 6 年度初めの時点で、株式会社科学飼料研究所龍野工場がエンラマイシン、サリノマイシンナトリウム、ノシヘプタイド、モネンシンナトリウム及びラサロシドナトリウムに係る登録特定飼料等製造業者の事業場として登録されている。

令和 6 年度の登録特定飼料等製造業者による特定添加物の製造数量及び実量力価換算量を表 4 に示した。なお、ノシヘプタイド、モネンシンナトリウム及びラサロシドナトリウムは、表 2 で示したとおり検定実績はなかったが、登録特定飼料等製造業者による製造実績があった。

令和 6 年度の登録特定飼料等製造業者による特定添加物の製造数量は 820 トン（対前年度比 108.7 %）、実量力価換算量は 129 トン(力価)（対前年度比 96.1 %）であった。

令和 6 年度の製造数量及び実量力価換算量は、モネンシンナトリウム、サリノマイシンナトリウム、ラサロシドナトリウム、ノシヘプタイド、エンラマイシンの順に多かった。

表 4 登録特定飼料等製造業者による特定添加物の製造数量等
(令和 5・6 年度)

類 別	特定添加物の種類	令和5年度		令和6年度	
		製造数量※ (kg)	実量力価 換算量 (kg(力価))	製造数量※ (kg)	実量力価 換算量 (kg(力価))
ポリペプチド系	エンラマイシン	81,840	6,547	20,400	1,632
	ノシヘプタイド	61,620	2,465	40,740	1,630
	小 計	143,460	9,012	61,140	3,262
ポリエーテル系	サリノマイシンナトリウム	110,500	11,050	184,720	18,472
	モネンシンナトリウム	378,360	75,672	432,260	86,452
	ラサロシドナトリウム	121,840	18,276	141,920	21,288
	小 計	610,700	104,998	758,900	126,212
総 計		754,160	114,010	820,040	129,474
対 前 年 度 比 (%)		95.1	96.1	108.7	113.6

※各登録特定飼料等製造業者より聞き取り

5 特定添加物の総数量等

令和 6 年度の特定添加物の検定合格数量（製造及び輸入）と登録特定飼料等製造業者による製造数量の総計（以下「総数量」という。）及びその実量力価換算量を表 5 に示した。

令和 6 年度に製造及び輸入された特定添加物は 8 種類あり、総数量を種類別にみると、サリノマイシンナトリウム（33.1 %）、モネンシンナトリウム（32.7 %）、ラサロシドナトリウム（10.7 %）の順に多く、類別ではポリエーテル系が最も多く、1,144 トン（検定：385 トン，登録：759 トン）と全体の 86.5 %を占めた。また、実量力価換算量を種類別にみると、モネンシンナトリウム（44.9 %）、サリノマイシンナトリウム（26.5 %）、ラサロシドナトリウム（11.1 %）の順に多く、類別でもポリエーテル系が最も多く、172 トン(力価)（検定：46 トン(力価)，登録：126 トン(力価)）と全体の 89.3 %を占めた。

次に、平成 27 年度から令和 6 年度までの過去 10 年間における特定添加物の総数量及び実量力価換算量の類別の推移をそれぞれ図 1 及び図 2 に示した。

総数量は増減があるものの、減少傾向で推移した。また、その実量力価換算量はおおよそ変わらず推移した。

検定合格数量については増減があるものの、減少傾向で推移した。また、実量力価換算量も同様に減少傾向で推移した。

登録特定飼料等製造業者による製造は平成 19 年度から開始されており、平成 29 年度から令和元年度までの 3 年間及び令和 3 年度以降、検定合格数量を上回っている。令和 6 年度は、特定添加物の総数量全体の 62.0 %（前年度 54.3 %）、実量力価換算量全体の 67.3 %（前年度 58.2 %）を登録特定飼料等製造業者による製造が占めた。

表 5 特定添加物の総数量等
（令和 6 年度）

類 別	特定添加物の種類	総数量※ ¹ (kg)	構成比 (%)	実量力価 換算量※ ² (kg(力価))	構成比 (%)
ポリペプチド系	亜鉛バシトラシン	—	—	—	—
	エンラマイシン	24,320	1.8	1,946	1.0
	ノシヘプタイド	40,740	3.1	1,630	0.8
	小 計	65,060	4.9	3,576	1.9
ホスホグリコリピッド系	フラボフォスフォリポール	48,000	3.6	3,840	2.0
	小 計	48,000	3.6	3,840	2.0
ポリエーテル系	サリノマイシンナトリウム	437,620	33.1	50,962	26.5
	センデュラマイシンナトリウム	—	—	—	—
	ナラシン	132,275	10.0	13,228	6.9
	モネンシンナトリウム	432,260	32.7	86,452	44.9
	ラサロシドナトリウム	141,920	10.7	21,288	11.1
	小 計	1,144,075	86.5	171,930	89.3
オルトソマイシン系	アビラマイシン	65,900	5.0	13,180	6.8
	小 計	65,900	5.0	13,180	6.8
その他	ビコザマイシン	—	—	—	—
	小 計	0	0.0	0	0.0
総 計		1,323,035	100.0	192,526	100.0

—：実績なし

※1 検定合格数量と登録特定飼料等製造業者による製造数量の総計

※2 検定合格数量と登録特定飼料等製造業者による製造の実量力価換算量の総計

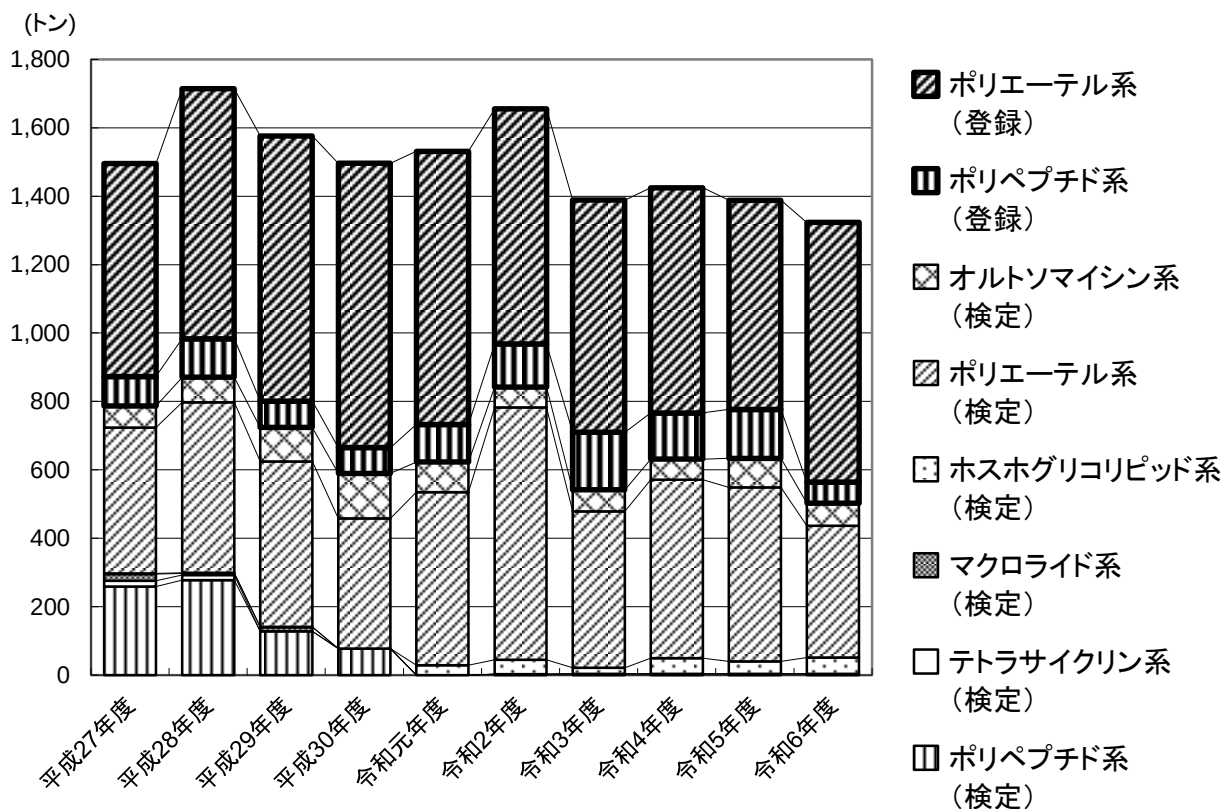


図1 特定添加物の総数量の推移 (類別)

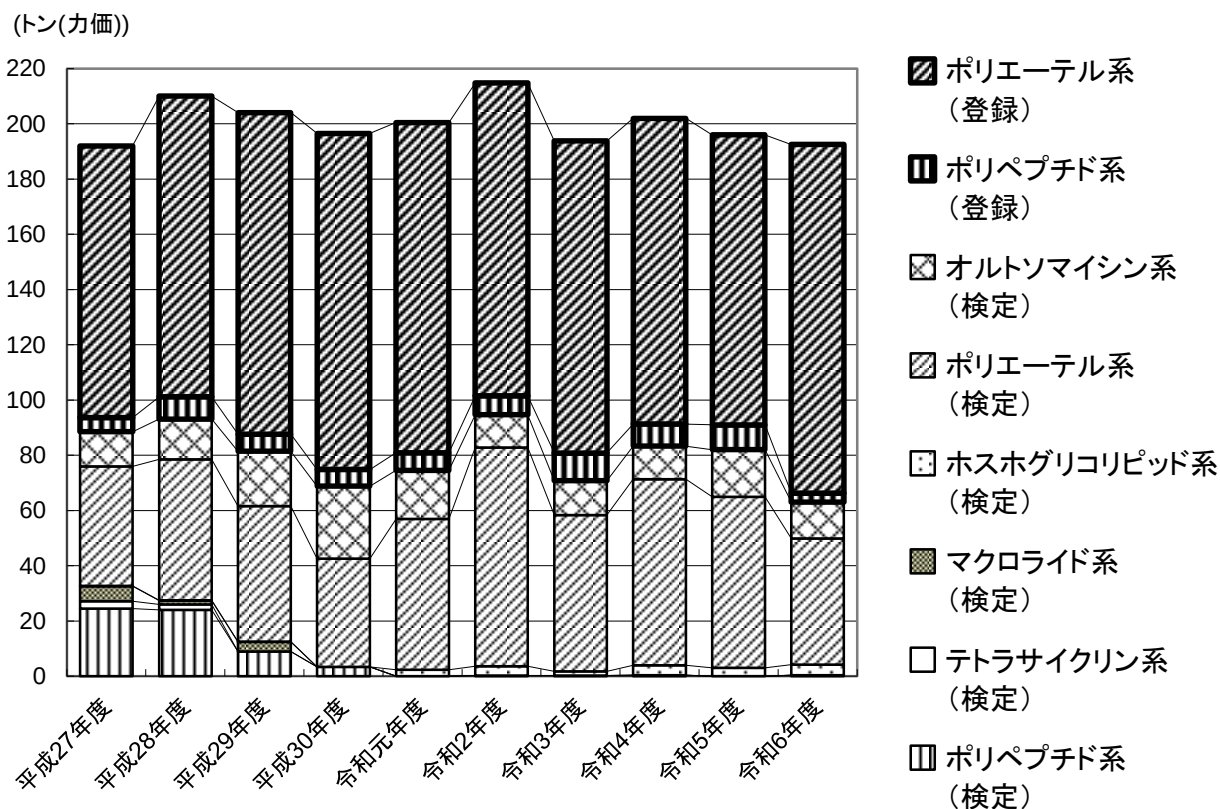


図2 特定添加物の総数の実量力価換算量の推移 (類別)

6 要 約

- 1) 令和 6 年度の特定添加物の検定の結果は、以下のとおりである。
 - i 検定に合格した特定添加物は、4 業者から申請された、5 種類、7 銘柄であった。
 - ii 検定合格件数は 90 件、合格数量は 503 トン、実量力価換算量は 63 トン(力価)で、前年度に比べて件数、数量及び実量力価換算量ともに減少した。
 - iii 検定に合格した特定添加物はすべて飼料級であり、精製級の実績はなかった。
 - iv 検定合格数量を種類別にみると、サリノマイシンナトリウム、ナラシン、アビラマイシンの順に多かった。また、実量力価換算量も同様の結果であった。
 - v 検定合格数量を類別にみると、ポリエーテル系及びオルトソマイシン系は前年度に比べて減少したが、ホスホグリコリピッド系は増加し、ポリペプチド系は前年度並みであった。また、実量力価換算量も同様の結果であった。
- 2) 令和 6 年度の登録特定飼料等製造業者による製造の結果は、以下のとおりである。
 - i 登録特定飼料等製造業者に登録されているのは 1 業者 1 工場であり、5 種類製造し、製造数量は 820 トン、実量力価換算量は 129 トン(力価)で、前年度に比べて、製造数量及び実量力価換算量ともに増加した。
 - ii 種類別にみると、製造数量はモネンシンナトリウム、サリノマイシンナトリウム、ラサロシドナトリウムの順に多かった。また、実量力価換算量はモネンシンナトリウム、ラサロシドナトリウム、サリノマイシンナトリウムの順に多かった。
- 3) 令和 6 年度の特定添加物の総数量等の結果は、以下のとおりである。

特定添加物の検定合格数量と登録特定飼料等製造業者による製造数量とを合計した総数量を種類別にみると、サリノマイシンナトリウム、モネンシンナトリウム、ラサロシドナトリウムの順に多かった。また、実量力価換算量においては、モネンシンナトリウム、サリノマイシンナトリウム、ラサロシドナトリウムの順に多かった。